

「カーボンニュートラル (脱炭素社会)」の 実現に向けて



公益財団法人ひょうご環境創造協会

理事長 秋山和裕

巻頭言

私ども、公益財団法人ひょうご環境創造協会は地球温暖化など地球規模からごみの適正処理など地域レベルまでの幅広い環境問題について、県民事業者の実践活動の支援や、環境に関する調査・研究・分析・測定、廃棄物等の広域的、効率的な適正処理など、さまざまな事業を展開してきました。例えばラジオ関西の「正木明の地球にいいこと」(月曜日午後1時)の提供もしています。

さて、近年では、地球温暖化の影響による災害が頻発するなど、気候変動はより深刻さを増しています。国は「2050年までに温室効果ガス2030年度の温室効果ガスを2013年度比で50%削減の高みを目指すことを決めました。また、再生可能エネルギーの導入目標も大きく引き上げられるなど、脱炭素への取り組みを急速に強化しました。加えて、兵庫県も昨年策定した「兵庫県地球温暖化対策推進計画」の見直しを進め、目標を強化することとなりました。

このように脱炭素の流れが加速していますが、このような課題の解決にはあらゆる組織・主体の取り組み強化が求められますし、各組織・主体が連携した取り組みを進めることも重要です。そこで、当協会では、温暖化防止に関わる各主体間をつなぐ中間支援機関としての機能を持つ「ひょう

ごカーボンニュートラル推進センター(仮称)を新たに設置することとしています。このセンターで、様々な相談対応や各組織・主体の脱炭素の体制づくり支援、温室効果ガス削減の設備導入補助などにより、家庭や中小事業者の脱炭素を強力に支援していきます。さらに、初期投資なしで太陽光発電の設置が可能な電力購入契約、いわゆるPPA方式を活用し、県内の公共団体施設、工場等民間施設、病院・福祉施設などへの導入を進め、県内の再生可能エネルギーの導入を加速させます。なお、この事業を進めるため、民間企業と共同で新たにPPA事業者である「合同会社ひょうご環境エネルギー(仮称)」を設立する予定です。今年、当協会は設立50周年を迎えます。50年前、昭和47年は大気汚染、水質汚濁、化学物質汚染が大きな社会問題となっていた頃ですが、設立後も当協会は常にその時代の要請に応じて、新たな課題に挑戦してきました。50周年を機に改めてこの原点に立ち返り、公益法人としての使命を果たして持続可能なより良い社会を実現するため、職員が丸となってカーボンニュートラルの取り組みを推進してまいりますので、引き続き、当協会へのご支援と当協会の事業のご活用をお願いいたします。